



日本共産党前都議会議員 そねはじめレポート

2012年 2月15日発行 第 32 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel: 3907-1135
Fax: 3906-3225

北区12年度予算案「1年限り」の住宅リフォーム助成を実質継続へ 高齢者への見守り強化の反面、重い保険料負担増が...

2月初旬に2012年度の北区予算原案が内示されました。日本共産党が3・11東日本大震災を教訓として強く求めた震災・高齢者・不況への対策がいくつも実現しました。

●災害対策の画期的な提言を具体化

共産党はおと年の堀船水害以来、震災とともに水害対策での専門家の検討を区に求めてきました。

北区は大震災後に「今後の災害対策のあり方検討委員会」を設置。12月には「実現性高い自助・共助・公助」「緊急課題と検討課題に分けてとりくむ」「既往災害の教訓を生かす」の視点で多様な対策が提案されました。

新年度予算では提言をもとに「北区防災計画」の大幅な改定、避難所機能の充実、防災無線など通信基盤の充実が盛りこまれました。

●耐震化工事助成を100万円に

地震から人命を守る決め手「木造民間住宅の耐震化工事」助成を100万円に倍化します。

耐震化でなくても自宅のリフォーム(10万円以上)に2割助成する住宅リフォーム助成は、単年度限りの事業を別名称で来年度も継続。土建組合や共産党区議団の要望が実りました。

期間を限らぬ通年申し込みで制度を利用しやすくし、限度額の引き上げなど改善をめざします。

●都の百ミリ対策と連携し集中豪雨対策も前進へ

堀船水害をくり返さぬよう、昨年共産党が区長の「百ミリ豪雨対策を都に求める」との答弁を引き出しました。都では石神井川に広域の地下貯水施設を計画化する見通しで、北区も連携して雨水貯留施設、浸水防止の「止水板」、雨水浸透施設などを予算化します。

●一人ぐらしの高齢者など見守りの充実

全高齢者7万8千人余の77.4%から回答を得た「高齢者実態調査」に基づき、13箇所の地域包括支援センターに区が「見守りコーディネーター」を配置し、介護と医療の連携推進会議を医師会と立ち上げ、「サポート医」を置くことも。特養ホームは定員90名で旧新町中跡地に、老人保健施設を田端3丁目に新設します。

●子育てでは保育園増設・中学校の新校舎

保育園は356名の定員増めざし、外語大跡地に定員99名の区立保育園を来年新設。都営王子本町団地建替えて99名の区立園を再来年オープンします。建替え中の区立十条富士見中学がオープン、滝野川・赤羽岩淵中学の改築計画を作成します。

●高齢者に医療と介護の保険料で2・3万円の負担増

しかし一方で、4月からの介護保険料の1.5万円値上げ(標準額)、75歳以上の後期高齢医療保険の平均8700円値上げが提案されており、合計2万3千円の負担増になります。

都と区が全力で値上げをおさえるよう求めていきます。



豊島地域後援会であいさつするそねはじめ前都議

区議会傍聴の「案内」

◆2・22・1時・本会議代表質問
山崎たい子政調会長

消費税と社会保障・原発ゼロ・自然エネルギー・放射線災害対策

◆2・23・十一時・一般質問
本田正則区議

・介護医療の連携・地域医療の拡充・田端のまちづくり

食品・土壌から放射能微量測定可能 党都議団が、各方面の協力で放射能測定器を購入



昨年、都が渋っていた空中放射線の測定にいち早くとりくみ、都内でも東部地域の高い放射能分布を明らかにして、各自治体の独自測定につながった共産党都議団の取り組みが、さらに前進しています。

●300万円の放射線測定器を購入し、早速活用

都議団は、各方面からの募金を集めて放射能測定器を300万円で購入し、1月末に納入されました。早速、都内の食品関係や土壌など、放射能の汚染が心配されている各地のサンプルについて調査を開始しています。(左の写真参照)

●都議団の調査から都民団体利用へ

測定器はサンプル以外の余計な放射線が入らないよう鉛で覆われた非常に重い器械ですが、大きさは小さくシンプルです。

当面は都議団の計画した調査に利用し、いずれ自主測定運動にとりくむ父母や住民団体にも協力できるよう検討しています。

都の新年度予算③都営住宅の耐震化予算は倍加したが..

都の2012年度予算で、都営住宅については3・11の大震災を受け、ようやく耐震化の遅れている老朽住宅の補強工事予算が増額されました。今年度耐震性を調査した結果、耐震基準を見直した昭和51年以前の都営住宅で、少なくとも約八万户を補強する必要があることが分かっています。

建替え計画がある住宅を除き、今年度約7千戸を補強。来年度は1万5千戸を120億円かけて補強します。

しかし東大研究所の発表した「4年以内に7割の確率で首都圏直下地震」という予測からすれば、このテンポでは間に合いません。予算を2倍から3倍にして2年以内に終わるようにすべきです。

しかも住宅密集地域の中で多数をしめる木造アパートに住む多くの高齢者や災害弱者をいち早く安全な住いに移転させるためにも、思い切った予算を取ってストップしている新築都営住宅の建設に取り組むことこそ、自治体として決断すべきときではないでしょうか。(写真は新築の神谷都営住宅前のそねはじめ前都議)



そねはじめ交友録<その二十六>

NHKの良心的解説者のさきがけ迫田さん

都議会で、青少年対策審議会の委員を数年務めました。石原知事のタカ派的なとりしまり中心の青少年対策との、少数派の苦しいたたかいが多かった中で、数少ない心温まる思い出が、NHK解説者の迫田とも子さんとの出会いでした。80年代には朝のニュース番組で清楚な美人アナとして古屋アナとともに活躍し、その後女性の権利を守る分野の解説者として深夜の解説番組で見かけていました。迫田さんが委員に委嘱後初の審議会にこられたとき挨拶して、青年時代に、広島「原爆の子」の像の前で勝手に並んで写真を撮ったことを告白したら笑っていました。

迫田さんは一貫して、青少年の自主性や自立性を傷つける都のやり方には、マスコミ委員には珍しく、やんわりとした口ぶりながらきびしい異論を唱えていました。

その後、NHK解説者に女性が増えてきましたが、まだ圧倒的に男性中心で、その分だけ弱い立場の国民を代表する人物が少ないのがNHKの現状ではないでしょうか。

85年広島の取材に来た迫田・古屋アナの隣りにそっと立ってとった写真

